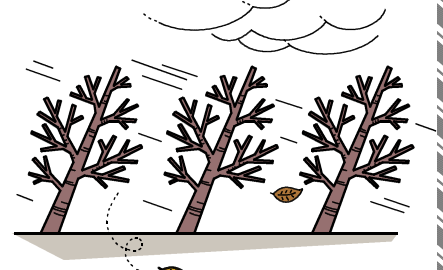


た心、「コロナ疲れ」「コロナ慣れ」した心を解放するために、子どもたちの主体性、自主性を大切にしながら、自分たちがやりたいことを自分たちの手で作り上げていくことでのエネルギーの解放を心がけなければならないと考える。そのために子どもたちの主体性を前面に押し出し、「子どもの任せること」「子どもを支えること」「子どもから引き出すこと」「子ども同士を結ぶこと」「子どもの行動を価値付けすること」などは特に意識しなければならないし、自己決定の場を大切にすること、児童に任す分、早め早めに仕掛けていくことなどは教師の行動指針として心にしっかりと刻んでおいてほしい。学校行事や児童会・係活動などの特別活動の場面だけでなく、授業を含め学教教育のすべてにおいて、「子ども（達）が自分（達）の力で」を意識し、これまでの計画・実践を振り返り、子どもが自分の手で主体的に活動する場を積極的に取り入れていきたい。（家庭についても同様）

○行動化／全員で同じ方向を／徹底 継続

「変容」を求めるためには「行動」すること以外にはない。行動してみてダメだったら修正する、止めるぐらいの柔軟さをもってまずは行動に移すことを優先していきたい。そして、行動化にあたっては全員が同じ方向を向き、納得いく結果が出るまで、改善を加えながらも「徹底」「継続」することを意識したい。同じことを同じようにしているだけでは変容はない。



○教師自身が実践者／体現者として行動を

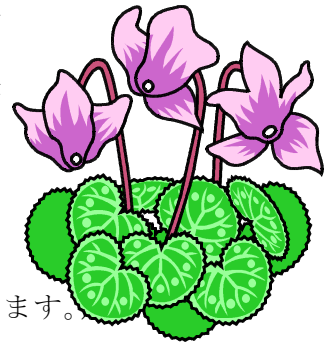
さらに、我々教師が意識しなければならないのは、子どもを変える前に教師自らが「実践者」「体現者」となることに力を注いでほしいということである。あいさつにしる、自己肯定感にしる、自己表出しる、主体性にしる、協働にしる、明るさ、元気さ、子どもに求めていく姿、資質・能力は教師自らが先頭にとって実践するという意識をしっかりと持ってほしい。子どもは大人に言われたことに従うのではなく、大人が見せている姿どうりに表現していくものと言われていく。子どもが目指す「モデル」となる教師であって欲しい。（家庭についても同様）

○北小の2つの節目① 北小創立150周年 子どもが主体的に関わる行事・活動

令和5年度は北小にとって大きな節目となることが2つ待っている。一つ目は「北小創立150周年」である。150周年の年に在籍していることをよい巡り合わせととらえ、できるだけ各種の活動に子どもたちの考えを生かしながら主体的に関われるようにしていきたい。今の子どもたちが大人になって振り返ったときに「自分たちで作った」という思いが出てくるような一年にしていきたい。子ども向けの集会、記念式典、150周年を意識した運動会／北っこまつり、記念誌の作成等、150周年記念の活動を成長の機会として活用し、150周年の活動を通して、子どもたちに「北小」「ふるさと」への思いを育てていきたい。ただ、この活動を通して、過度の負担を強いることは本末転倒であることも忘れてはならない。

○北小の2つの節目②コミュニティスクールへの移行／地域とともにある学校づくり

二つ目は「コミュニティスクールへの移行」である。地域・保護者の力を学校運営にもっと関わっていただくシステム作りである。運営の柱となる学校運営協議会の設立はもとより、学校・保護者・地域が責任を共有し、一体となって学校によりよい運営に向けて行動化していく「地域とともにある学校づくり」をさらに推進していくこととなる。コロナ禍で保護者・保護者との関わりが激減してしまったが、R5はできる限り関わりの量も質も高めていきたい。ただ、これまで通りの関わりに戻すだけでなく持続可能な新しい形での関わりを考えたい。



※コミュニティスクールについてはまた別の機会に説明したいと思います。

いずれにせよ、次年度の学校経営計画を考える上では、今年度の反省をしっかりと行うことはもとより、子ども達の実態をあらためて見直し、その上で、何のために、具体的に何をするのかを明確にしながら進めていきたい。

今回の総括を受けて、次年度目指していこうと考える学校の姿については次号以降でお伝えします。保護者の皆さんの協力を得ながら、より具体的に、より戦略的に学校経営をしていきたいと考えています。保護者の皆さんの「次年度の学校に期待すること」などありましたらお聞かせください。

保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください（または assist.nihonmatsukita-e@fcs.ed.jp まで）～

..... 切り取り線